

熊本県立熊本西高等学校 平成28年度学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓 清・明・和（「清」とは規律・秩序を表す。「明」とは自由・創造を表す。「和」とは調和・奉仕を表す。）の教えを根幹とし、知・徳・体の調和の取れた文武両道の教育をとおして、世界的視野に立った日本人の育成を目指す。</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p><めざす生徒像></p> <p style="text-align: center;">“高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒” ～未来の実現に向かって、情熱を持って、果敢に挑戦しよう～</p> <p><具体的取組重点事項></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 10%;">1 学力の向上</td> <td>・・・魅力的な授業創造と進路保障のための学力向上</td> </tr> <tr> <td>2 生徒指導の徹底</td> <td>・・・基本的生活習慣の確立</td> </tr> <tr> <td>3 生徒理解</td> <td>・・・個に応じた個を大切にした指導の徹底</td> </tr> <tr> <td>4 進路目標実現</td> <td>・・・行きたい進路目標（夢）の実現</td> </tr> <tr> <td>5 体力の向上と逞しい精神力</td> <td>・・・人間力を高める</td> </tr> </table>	1 学力の向上	・・・魅力的な授業創造と進路保障のための学力向上	2 生徒指導の徹底	・・・基本的生活習慣の確立	3 生徒理解	・・・個に応じた個を大切にした指導の徹底	4 進路目標実現	・・・行きたい進路目標（夢）の実現	5 体力の向上と逞しい精神力	・・・人間力を高める
1 学力の向上	・・・魅力的な授業創造と進路保障のための学力向上									
2 生徒指導の徹底	・・・基本的生活習慣の確立									
3 生徒理解	・・・個に応じた個を大切にした指導の徹底									
4 進路目標実現	・・・行きたい進路目標（夢）の実現									
5 体力の向上と逞しい精神力	・・・人間力を高める									

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	開かれた学校づくり	広報活動の充実と土曜日授業の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日体験入学、西高公開の日、西高説明会の内容充実 ・ 広報誌の内容充実 ・ 学校HPの随時更新（更新回数100回以上） ・ 土曜日授業活用による保護者や地域との交流や行事等の開放 ・ 学校評議員会の年間2回実施（学校評価や本校取組の検証） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 従来の取組内容にプラスワンの視点を取り入れ内容を充実させる。 ・ 担当部署が中心となり、他の部との連携のもと、学校全体として取り組む。 ・ 可能な限り、生徒（会）主体を目指し、生徒が活躍する場を設定する。 ・ 各中学校の訪問担当者を決め定期的に訪問し、交流を深める。 	A	一日体験入学、西高公開の日ともに大きく内容を変更した。参加者数は、昨年度よりも増加し、概ね好評であった。さらに充実した内容になるように工夫、改良していきたい。土曜日授業による保護者や地域との交流・行事等の開放については、多くの保護者や地域の方々にご参加いただき、好評であった。西高新聞を6月号から12月号まで計画どおりに発行することができ、西高生の活躍を伝えることができた。HPの更新回数は、12月末までで85回で、3月末までには目標を上回る予定である。
	スクールアイデンティティの確立	生徒・保護者・地域が求める西高づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特進クラスを中心とした高大連携事業、小・中・高連携事業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、崇城大学との高大連携を継続した連携することで、特進コースの独自性を高めていく。 ・ 城山小学校との小高連携を通して、地域に貢献していく。 	B	高大連携では、熊本県立大学の他に県内の4大学との連携もスタートすることができた。今後は継続していくための枠組み作りと連携内容の充実が重要になる。また、城山小学校の「ふれあい教室」では本校生が小学生を積極的に指導し好評だった。大学訪問では、1年生が熊本県立大学、2年生が九州大学を訪問し、大学への理解を深めることができた。
	中高交流	西地区の拠点校としての取組推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観、合同授業、情報交換会の実施 ・ 生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 城南中学校と授業参観や合同授業を学期に数回実施する。 ・ 情報交換会を毎月行う。 	B	熊本地震があったものの、相互の授業参観、毎月の情報交換会が実施できた。英語の授業支援、部活動の交流、更には成果報告会も実施でき、昨年に引き続き大きな成果をあげている。

学校経営	学校改革	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と向き合う時間の確保 生徒の学力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 校務改革と授業改革の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 行事の精選 教科会の内容の充実 学習環境、施設の整備 職員研修の充実 	B	<p>学校改革班を中心に行事の精選や高大接続システム改革についての研修を実施し、主体的、対話的で深い学びについて情報共有を行った。また、希望による職員研修も実施し、教科指導力向上に努めた。学習環境の整備として質問コーナーの設置を行った。</p>
学力向上	授業力の向上	「西高で目指す授業」を念頭に置いた教科指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業・公開授業の充実（相互授業見学200件以上） 生徒による授業評価の実施と活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「西高で目指す授業」への全職員による取組 研究授業及び合評会の充実、授業見学レポートの活用 生徒による授業評価結果を個々の職員で活用し、授業改善及び授業力向上に努める。 	B	<p>各学期の研究授業旬間で、全教科が研究授業・合評会を実施した。他教科を含めた相互授業見学には、のべ222件の見学があった。また、生徒による授業評価については、個人の評価結果を配付した。全職員での授業力向上への取り組みが行われているところであるが、今後も授業改善について継続した取り組みを地道に重ねていく必要がある。</p>
	自学力の育成	宅習時間の確保	平日2時間（1、2年）、3時間（3年）確保	<ul style="list-style-type: none"> 宅習時間調査の実施 セルフチェックノートを活用して、時間の使い方の工夫を促す 教科課題の工夫と意識喚起 下校時間の徹底 	B	<p>宅習時間調査を2回行った結果、11月実施分は、1年54分、2年72分、3年102分であった。さらに時間の使い方の工夫を喚起し、意識をさせていく必要がある。今後も授業改善と家庭学習の内容や課題の工夫について研究し、取り組みを充実させていく必要がある。</p>
キャリア教育（進路指導）	学力の充実	教科及び進路指導力の向上	各教科や関係する部署との連携と職員の教科及び進路指導力の向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 「西高で目指す授業」に向け、各教科で授業研究に取り組み、生徒のやる気を引き出す。 ゼミの充実 進路に関する研修会を充実させることにより、情報の共有化を図る。 	B	<p>各教科会の活性化を図り、教科研修の充実に取り組んだ。その内容が授業で実践し、効果あるものになるような検証が必要である。進路に関する情報の共有はできた。そのことを生徒にどのように、伝えて、適切な進路指導をしていくかが今後の課題である。</p>
	一人一人の進路目標達成	進路実績 進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度を上回る進路実績を上げる。（国公立大合格者35人） 夢や目標を与える取組の実施 インターンシップの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 進路相談、面談の充実 個別指導・面接指導 学力検討会の充実 日本や熊本で活躍する人による講演会の実施 生徒の適性等を考慮したインターンシップの実施、受入先開拓 	B	<p>学年団で連携して、効率よく適切な指導ができた。学力検討会も工夫はしたが、時期や時間とそのことを実践し、生徒の学力向上にまで至っていない。インターンシップについては、1学期のはやい時期に参加を促す企画が不十分だったので、前年度末からの動きが必要である。</p>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 時間厳守 爽やかなあいさつ 正しい着こなし 	<ul style="list-style-type: none"> 1日の遅刻者数1.0人（昨年度1.6人） 生徒対象アンケートの挨拶・時間厳守・服装の項目平均3.2以上（満点4） 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員による毎朝の遅刻指導 地域と連携した挨拶推進運動、職員からの率先した挨拶励行 機を逃さない服装指導 生徒会による挨拶・交通指導等への指導・支援 	A	<p>遅刻者数は、2学期末時点で1日平均1.58人。昨年度より18人減だった。遅刻を繰り返す生徒も多く、保護者の協力を得ながら指導していきたい。生徒対象アンケートの挨拶・時間・服装の項目は3.2。目標はぎりぎり到達したが、更に全職員で機を逃さない指導を心掛けたい。</p>

生徒指導	能動的言動の育成	各行事における生徒の自主性の育成	生徒が主体となった行事の企画・運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等において可能な限り、職員主体から生徒主体への移行を図る。 ・夢や目標を与える講演会等の実施 ・全職員による様々な場面での声かけ・励まし等の支援 	B	<p>体育大会は、震災の影響で中止になったが、創立記念祭では、生徒会が新たな企画を行ったりと充実したものとなった。生徒対象アンケート「生徒の主体性」3.0。「充実した毎日」2.9と昨年と同じであった。生徒が行事だけでなく、学校生活の中で主体的に取り組める教師からの支援を実践していきたい。</p>
	美化、環境意識の高揚	掃除への意識高揚、環境ISOの取組推進	生徒対象アンケートの美化・省エネの項目平均3以上(満点4)	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による掃除指導の徹底 ・細めな消灯・節電・節水 	B	<p>生徒対象アンケート「美化・省エネ」2.8。昨年より0.1下がった。掃除の取組や美化への意識が低い生徒もいる。掃除のやり方や役割の細分化など、職員の手立てが必要である。</p>
人権教育の推進	職員研修の充実	人権教育の基本的認識の確立とその共有	校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権や命の問題についての知識や考察を深める講話の実施 	A	<p>昨年には届かないが、比較的高い評価を得ている。今年度は討議の場を増やして意見交換出来る機会を多く設けた。</p>
	命を大切に する心の育成	自尊感情及び他者を尊重する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象アンケートの「命を大切にする心の育成の充実」の項目平均3.5以上(満点4) ・生徒および職員の心身のストレスの軽減 ・ボランティア活動等の体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業等で命の大切さについて学ぶ機会を各職員が2学期までに1回以上設ける。 ・リラクゼーション等の知識や技術の定期的な啓発と促進 ・生徒会による取組への指導・支援 	B	<p>震災のため予定していたとおりに出来ない部分も多少あったが、代わりにリラクゼーションによるストレス軽減法を紹介することで、自他共に命を大切にする事の意味や意識を育てることが出来た。また、今まで以上に多くの職員及び生徒が地域の方々と連携する機会を体験し、学びの場とすることが出来た。</p>
いじめの防止等	人権意識の育成	いじめをしない、許さない心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ解消率100% ・生徒会による取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に従い、未然防止及び早期対応に努める。 ・本校独自の「こころのアンケート」の実施と活用 ・生徒会による取組への指導・支援 	A	<p>昨年と同様、迅速な対応に努めた。心のアンケートでは、今回もいじめ解消率100%は達成出来ず、引き続き本校の課題である。生徒会主導によるいじめ防止のための取組は、ここ数年定着してきている。今後も上手く連携を取りながら、生徒が主体となって啓発活動を行う学校作りを更に推進したい。</p>
理数科教育	理数科教育の充実	研究活動の充実、進路実績	課題研究や高大連携事業を充実させ、生徒の進路意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や研究の深化と発表スキル向上 ・実習の事前・事後指導の充実、中間まとめの実施 ・面談の充実 ・理数科体験プログラム、の実施 ・学校説明会やHPの活用 ・中高連携活動の推進 ・対外的な発表会への積極的な参加とPR 	B	<p>課題研究への導入をさらに工夫し、生徒の希望や実態に合わせたコース選択につなげることができた。課題研究での発表スキルの向上のために、崇城大学でのサイエンスインターハイに2年生全員が参加し、その中の1本は予備審査を通りコンペティションに採択された。また、WRO(ロボットコンテスト)に参加するなど活発に对外活動を拡大した。オープンスクールの内容変更に合わせて理数科体験プログラムも変更されたが、多くの中学生の参加につなげることができた。3年生の進路保障支援にも積極的に関与できた。</p>
		理数科のPR充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携の取組充実 ・定員確保 			

4 学校関係者評価

【評価項目や評価結果について】

- 校訓「清・明・和」は素晴らしい教育目標になっている。開かれた学校づくりに大いに取り組まれている。
- 評価の内容や方法については、具体的目標や具体的方策が為され、良く取り組まれている。詳細に成果と課題が示されている。
- 生徒の対象の評価では、人権に関する評価は高いものの、学力や授業に関しては低い。また、保護者対象の評価では、生徒指導や部活動指導は高いが、育西会活動への参加に関しては低い。職員対象の評価では、人権に関することや生徒指導については高い。総合的に学校の評価は高いけれど、授業に関しては低い。
- 学校評価の結果は、総合的には昨年度とあまり変わらない。しかし、職員対象の学校評価アンケートのみ少し下がっているのが気がかりである。
- 学校教育目標は適切であると思う。学校評価の内容や方法についても、具体的目標、方策、成果と課題を明確にされており、今後の学校経営に反映されることにより、更に充実されるものと思う。
- 学校教育目標は適切であり、本校で培う3年間の経験は社会に出た時の様々な場面で必ず役に立ちます。在校生の皆さんにはこれからも文武両道に励んで頂きたいと考えます。
- 学校評価の内容や方法については、生徒、保護者、職員という3者からの意見徴収やアンケートがあって適切である。
- 学校評価の結果については、例年と変わらず、概ね順調だと思う。
- 生徒、保護者、職員からのアンケート収集及び生徒による授業評価の実施は、評価を行う際の重要な資料である。昨年度に引き続き保護者からのアンケート回収率が100%に近かったことはすばらしい。
- 人権、いじめの項目の評価が生徒・職員共に高かったことは大切なことであり、これからも個々意識を持って継続してほしい。
- 生徒、保護者、職員からのアンケートで評価が低かった項目については、取組状況を分析し、次年度に向けて具体的方策を立てる必要がある。

【各項目について】

①学校経営

- 総合的に良い。学力だけが重要とは思えないので現状で良いと思う。
- 西高生の活躍を紹介する西高新聞を毎月発行して地域に配付したり、中高交流で授業参観を頻繁に行うなど、地道な活動が良いと思う。
- 企画戦略委員会が機能し、学校改革が進んでいるので、学校経営は適切であると思う。
- 学校改革で生徒の学力向上の項目があり、授業改革など取り組まれているが、学校経営の根幹なので更なる充実を期待したい。

②学力向上

- 学校評価アンケートを見ると、決して良くはないが、努力がなされているのでいずれ良くなると思う。
- 早稲田大学政治経済学部への合格者など、校長先生をはじめ教職員の方々の地道な努力に敬意を表します。
- 自学力の大切さ、宅習時間の確保については、残念ながら毎年の課題となっている。生徒の自覚を促す指導を期待したい。

③キャリア教育

- 「西高で目指す授業」という取組が具体的に示されているのでいい。
- 西高では「目指す授業」が提示されているが、もっと具体的に示して取り組んでもいいのではないかと。
- 国公立をはじめとした大学合格者増を目指し、取り組んで頂きたいと思います。
- 昨年度を上回る進路実績を上げる等、キャリア教育の充実が図られている。

④生徒指導

- 「清・明・和」の校訓のもと、挨拶や時間厳守等、人格形成の指導がしっかりなされている。
- 生徒指導はフォローが肝心。現在も一人ひとり個別の指導がなされているが、より丁寧な指導を期待したい。
- 学校周辺の自転車マナーはいいが、学校から少し離れた所での交通マナーについて課題が残る。具体的な取組を期待したい。
- 現代の現状に置き換え、緩める所は緩め、適切に行われていると思う。西高生を見かけた時、「まじめだな」という印象は変わりません。
- 学校行事が生徒中心で動いていることは継続してほしい。

⑤人権教育の推進

- 現在も人権教育の推進を図っているが、昨今の社会での事件を考えると、更に推進していく必要がある。
- 生徒・保護者・教職員のアンケートでは高い評価が得られており、「職員研修」の充実も図られているようなので良い。今後も人権教育の推進に取り組んでほしい。

⑥いじめの防止等

- いじめの防止等についての生徒評価は高評価で良く取り組まれている。今後も丁寧に取り組んでほしい。
- 本校独自の「こころのアンケート」の実施、その後の個別面談等、生徒1人ひとりを大切にした対応がなされている。

⑦理数科教育

- 高大連携、オープンスクール、中高連携等、様々な工夫がなされている。これから更に工夫改善して生徒募集に繋げてほしい。
- PDC Aの繰り返しを行い、生徒募集に繋げてほしい。
- 理数科教育について学校評価の小項目にも挙げられており、特に力を入れられていることが伝わってきました。
- 前期入試の倍率が大幅に回復された。これまでの粘り強い努力が結果しつづつあると思う。
- 対外活動の拡大を続けてほしい。

【その他】

- 学力が高いにこしたことはないが、学力だけが良くてもいけないと思う。現在の西高の在り方でも悪くないと思う。
- 全体的に中途半端な感じがする。もう一つ特徴がほしい。進学、専門学校、就職のどの項目に力を入れるのか。「本人の夢+指導=目指すもの」是非、学校全体で学校目標に向かって頑張ってもらいたい。
- それぞれの項目に具体的方策を立てられ、着実に成果を上げられている。
- 教職員の皆様の日々の努力は、公務員という立場を超えた教育者としての情熱、本校生徒への愛情を感じさせます。
- 西高新聞はとて内容の充実した新聞となっている。西高の様子がよくわかる。「西高新聞」の題字の文字も生徒の文字を使用し、美術部の「8つの間違え」も興味の湧く内容となっている。西高のすばらしさをもっともっと発信してほしい。

5 総合評価

今年度は、城南中学校と人事交流を含めた中高交流事業を実施し、地震の影響はあったものの西部地区の拠点校としての取組を推進した。評価項目については、学校改革を追加し、目指す生徒像「高い志を持ち、夢実現に向かって輝く生徒」の達成に向けて全職員で取り組んだ。全体評価としては、15項目のうち4項目がA評価、11項目がBとなっており、概ね目標達成ができた判断している。

個別の項目では、「開かれた学校づくり」、「授業力の向上」、「一人一人の進路目標達成」など5項目が昨年度よりも評価が向上した。今年度より、企画戦略委員会として、授業改革班、校務改革班、生徒募集班の三班を設置し、喫緊の課題について協議検討、企画立案し、学校改革を推進した。また、生徒の頑張りを紹介する西高新聞を毎月発行し、中学校や地域の皆様に配付するなど、ホームページの更新と併せて広報活動に努めた結果が高い評価に繋がっていると考えられる。

本校の課題である「自学力の育成」と「学力の充実」については、B評価であるものの、決して評価は高くない。授業改革やOJTの推進を図り、分かる授業の実践や宅習時間の確保に結びつける教科指導等への取組を充実させていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- 学校評価全体としては、「高い志を持ち夢実現に向かって輝く生徒」の育成を目指し、本年度の成果と課題をしっかりと検証したうえで、プラスワンの精神を盛り込みながら、目標達成に向けて全職員で取り組んでいきたい。
- 「自学力の育成」及び「学力の充実」は本校の大きな課題である。毎日の授業が一番大切であるという基本を再確認して、「西高で目指す授業」の再構築を図り、生徒の主体的、対話的で深い学びの授業実践に向けて学校全体として取り組んでいきたい。
- 「開かれた学校づくり」及び「中高交流事業」については高い評価である。情報発信の充実や小・中学校及び保護者・地域、更には西区役所との連携強化を図り、西部地区の拠点校としての取組を更に推進していきたい。
- 「人権教育の推進」及び「いじめの防止等」については、職員研修や本校独自の「こころのアンケート」を更に充実させながら、いじめの事前防止や早期解消、いじめ解消率100%をめざして、取り組んでいきたい。また、地震に対する心のケアについても継続的に取り組んでいきたい。
- 理数科教育については、昨年度に引き続き、各種の表彰を受けたり、科学イベントへの協力を実施するなど成果を上げている。次年度も、取組内容や生徒の活躍等を西高新聞やホームページで積極的に発信し、理数科教育の充実を図っていきたい。